

あすなる・さわやか学級生活単元学習 学習指導案

日 時 平成27年10月1日(木) 5校時

1 単元名 「誕生会を開こう」② ～先生を誕生会に招待しよう(招待状づくり)～

2 単元について

(1) 生徒観

本校の特別支援学級は知的障がい学級(5名)と情緒障がい学級(1名)の2学級が設置されている。社会性を身につけること、また生徒同士が相談しながら課題を解決する力を身につけさせたいという観点から、生活単元学習の活動を一緒に行っている。

6人の生徒は概ね優しく友達思いであるが、ほぼ全員が発表やコミュニケーションをとることが苦手である。そのため何かを伝えなければならない場面であっても、自分の気持ちや伝達事項を伝えきれないことが多い。1学期の誕生会に関わる授業の中でも、楽しい内容でありながら発表では緊張して黙り込んでしまう場面があった。

コミュニケーションが苦手であることは特別支援学級の生徒によく見られがちだが、本校生徒の場合失敗経験を思い出して次のやる気を持つことができず、極度の緊張に陥るようである。

その克服のため、生徒たちが楽しみにしている誕生会に関わる活動をするこゝと、そしてその中でも生徒が今まで学習してきたキャリア学習を復習でき、さらにコミュニケーションをとる練習ができる内容を考え、本題材を設定した。

本単元は学期に1回の誕生会であるため、2学期は2度目の取り組みとなる。誕生会の計画や準備を行う中で、友達や先生方に誕生会に関わるカードを贈ることは、子どもたちにとって誕生会への意欲づけとなっている。他者との関わりを、自分本位でなく考えられるきっかけとなるような授業を考えたい。

(2) 教材観

本教材は、主に他者とのコミュニケーションのきっかけとなるように選んだ教材である。

1学期の単元の導入授業では、「気持ちをつたえるお誕生会を開こう」というめあてで、誕生会は祝福や感謝の気持ちを伝える目的で行うことを学んだ上で、誕生日の友達への「おめでとカードづくり」と祝ってくれる友達への「ありがとうカードづくり」を行い、誕生会当日はお互いに言葉を添えて手渡した。

2学期の今回は、教科の授業でお世話になっている先生方を誕生会に招待することにして、友達間の対応だけではなく、大人のお客様への対応の仕方を学ぶ。招待するにあたっては、招待する方に「アポイントをとる」「質問をする」などの対応を実際に行い、今までのキャリア学習で学んだことを生かしたい。

カード作りでは、招待状に記載されなければいけない条件や敬語の使い方の学習に加え、もらった人が嬉しくなるような工夫も取り入れて達成感を持たせたい。いずれの活動も相手を意識したコミュニケーション能力の向上を目的として、将来の人間関係作りに役立てたい。

取り組みの3回目となる3学期には、教師の支援をできるだけ少なくして誕生会の計画と実施ができるようにさせたいと考えている。

(3) 指導観

6名の生徒は、個人差は大きいものの、ほぼ全員が発表やコミュニケーションを取ることが苦手である。自信が持てず、また説明を読む、聞くだけではイメージを持ちにくい実態がある。また友達に頼ってしまうことも多い。

その現状を踏まえ、書くもの・作るものの見本をあらかじめ準備し、作業の手順を実際に示すなどして視覚的にイメージを持たせるように支援したいと考える。

また全員が2・3年生ということで何らかのキャリア学習を経験しており、目上の人に正しい態度や言葉づかいで接する練習を、実際に一人ひとりに行わせたいと考えている。

3 単元の目標

- ・誕生会への意欲を持つことができる。
- ・誕生会や調理実習に関わる手順や、カードに必要な条件・内容がわかる。
- ・誕生会に関わる物の制作や、調理実習が安全に丁寧にできる。
- ・誕生会やその準備の中で、相手や周囲の気持ちを考え、言葉や文字にすることができる。

4 単元の指導計画

「誕生会を開こう」① 気持ちをつたえる誕生会を開こう 【4時間】

「誕生会を開こう」② 先生を誕生会に招待しよう 【14時間】

事前学習1	計画(日時・時間帯・場所・参加者の確認、役割分担)	1時間
事前学習2	「招待状」制作事前学習	1時間
事前学習3	「招待状」を作るためのインタビュー・情報収集	1時間
事前学習4	「招待状」の制作・インタビューと情報のまとめ	1時間
	・計画とイメージ図づくり	1時間
	・制作	
	「もらってうれしい招待状を作ろう」	1時間——(本時)
事前学習5	「おめでとうカード」と「ありがとうカード」の制作	1時間
事前学習6	クッキー作りとラッピング	2時間
誕生会	当日準備・誕生会・後片付け	3時間
事後学習	まとめ(感想・反省・写真掲示など)	2時間

「誕生会を開こう」③ 今年度最後の誕生会を、自分たちの手で開こう 【6時間】

5 本時

(1) 目標

- ・集中して招待状制作に取り組むことができる。
- ・招待状に必要な内容がわかる。
- ・もらった人が嬉しい招待状を、丁寧に作ることができる。
- ・相手がもらって嬉しい招待状になるよう、工夫することができる。

(2) 生徒の本時に関わる実態および本時における個別の目標と支援の手立て

*別紙

展開

学習段階	学習活動	個々の生徒への支援及び指導上の留意点 ■課題 ○支援 T1, T2 ☆評価					
		A生徒(2年女子)	B生徒(3年男子)	C生徒(2年女子)	D生徒(2年女子)	E生徒(3年女子)	F生徒(2年女子)
教師の説明 5分	1 あいさつをする。 2 前時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢がよくない、声が小さいなどの場合は、正すべき点を考えさせもう一度行う。 本時の流れを伝える。 ○次のことを伝え、概ねの時間の見通しを持たせ、不安をできるだけ軽減させる。 <ul style="list-style-type: none"> ① 本時は招待状づくりの続きを行うこと。 ② 10分前になったらタイマーで終わりを知らせること。 ③ 招待状の仕上げが完了しなくてもできるだけ頑張ればよいこと。 ホワイトボードで、どの先生に誰が書くのかを示す。 工夫の確認をし、作業内容を明確にする。 T2は、基本的にA・Bにつく。 					
理解確認 3分	3 本時の学習目標を確認する。	<p>もらってうれしい招待状を作ろう。</p>					
理解深化 32分	4 招待状の文章を書く。 5 招待状の工夫をする。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに課題(めあて)を記入させる。 ■イメージ図を見ながら清書する。 ☆正しく書き写しているか。(T1・T2) ■見本を見ながら仕上げをする。 ☆見本を見ながらできるだけ工夫しているか。(T1・T2) ○あらかじめ見本を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに課題(めあて)を記入させる。 ■イメージ図で確認しながら清書する。 ☆適切な文を書いているか。(T1・T2) ■もらった人がうれしい工夫がある招待状を作る。 ☆招待状に工夫を取り入れているか。(T1・T2) ○うまくできない時にはアドバイスをを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに課題(めあて)を記入させる。 ■イメージ図で確認しながら清書する。 ☆招待状に自分で考えた文を書いているか。(T1・T2) ○適切な言葉でなかった時にはアドバイスをを行う。 ■もらった人がうれしい工夫がある招待状を、できるだけ自分の力で作る。招待状の文章を書く。 ☆招待状に工夫を取り入れているか。(T1・T2) 			
自己評価 10分	6 ワークシートで本時の学習内容を振り返る。 7 次時の学習について知る。 8 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価が記入されているか確認する。(T2) ■友達の作品の感想発表をする。 ☆支援を受けながら発表できたか。 ○T2が生徒のがんばりを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価が記入されているか確認する。(T2) ■友達の作品の感想発表をする。 ☆支援を受けながら発表できたか。 ○T2が生徒のがんばりを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価が記入されているか確認する。(T2) ■友達の作品の感想発表をする。 ☆自分の力で発表できたか。 ○T2が生徒のがんばりを評価する。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 次時は「おめでとうカード」「ありがとうカードを書く」ことを伝える。 姿勢がよくない、声が小さいなどの場合は、正すべき点を考えさせもう一度行う。 					

	関心・意欲・態度	知識・理解	技能	表現	
単元目標	誕生会への意欲を持つことができる。	①誕生会に関わるカードに必要な条件・内容がわかる。 ②調理実習や誕生会実施の手順がわかる。	①誕生会に関わる制作物を丁寧に作ることができる。 ②安全に衛生的に調理実習ができる。	誕生会やその準備の中で、相手や周囲の気持ちを考え、言葉や文にすることができる。	
本時の目標 (評価項目)	集中して「招待状」制作に取り組むことができる。	招待状に必要な内容がわかる。	もらった人が嬉しい招待状を、丁寧に作ることができる。	相手がもらって嬉しい招待状になるよう、工夫することができる。	
2年 女子 A	本単元に関する生徒の実態	主体的な活動が苦手だが、お楽しみ会には関心を持っている。	経験したことによる記憶を、比較的覚えている。	指先の発達がまだ十分ではなく苦手なことが多いが、調理にはやや慣れている。	相手の気持ちを考えることはまだ苦手だが、自分の気持ちを伝えようと努力している。
	本時の概ね満足できる状況	説明や友達の発表をよく聞く。 支援を受け招待状を完成しようとする意欲を持つ。	招待状に必要な内容を2つ以上答えることができる。	見本を見ながら、必要な内容が書かれた招待状を作ることができる。	見本を見ながら、自分の思いに近い文を招待状に書くことができる。
	支援の手立て	教師に甘えすぎることがないように留意しながら、製作途中の励ましを行う。	必要に応じてヒントを与える。	見本を示し、教師が共に活動する。	本人の気持ちに近い表現かどうかを確かめ、見本を示す。
3年 男子 B	本単元に関する生徒の実態	直前の出来事などに気持ちが左右されることが多いが、誕生会などのお祝い行事に意欲的に取り組む。	記憶意欲が多いが、反復して覚える日常的な活動は比較的覚えている。	作業に両手を使う習慣がまだついていないが、絵の色使いが独特で、色塗りが丁寧である。	相手の気持ちを考えることはまだ苦手だが、自分の気持ちを伝えようと努力している。
	本時の概ね満足できる状況	集中して、最後まで招待状を完成しようとする意欲を持つ。	招待状に必要な内容を2つ以上答えることができる。	見本を見ながら、必要な内容が書かれた招待状を作ることができる。	見本を見ながら、自分の思いに近い文を招待状に書くことができる。
	支援の手立て	興奮や意欲消沈が見えた時は、なだめる、励ますなどの支援を行う。	必要に応じてヒントを与える。	見本を示す。	本人の気持ちに近い表現かどうかを確かめ、見本を示す。
2年 女子 C	本単元に関する生徒の実態	誕生会などの行事に意欲を持って取り組む。よく説明を聞き、理解しようと努める。	活動に必要な事柄やカードに必要な項目などを、自分で考えて挙げるができる。	丁寧に制作物に取り組もうとしている。安全や衛生への配慮がある。	相手に喜んでほしいという気持ちが強く、その表現の方法を知りたいと思い努力している。
	本時の概ね満足できる状況	集中して招待状制作に取り組み、完成後の達成感を感じることができる。	招待状に必要な内容を3つ以上答えることができる。	計画通り必要なことが書かれ、もらった人が嬉しくなる工夫がある招待状を作ることができる。	招待状に短い文を書いて、来場してほしい気持ちを表現できる。
	支援の手立て	手順が分からなくならないよう、進み具合を確かめながら声かけを行う。	本人からの要望があればヒントを与える。	計画表をよく見るように指示する。	表現の仕方に迷うときは、教師が例を示す。
2年 女子 D	本単元に関する生徒の実態	友達を大切にすることが強く、誕生会などでみんなのために働こうとする。	ヒントがあると、活動に必要な事柄やカードに必要な項目などを挙げるができる。	制作物に工夫を加えようと努力する。調理器具の扱いには、怖さがまだある。	周囲の人々への配慮ができる。話して伝えることに苦手意識があるが、書いて伝えることには抵抗が少ない。
	本時の概ね満足できる状況	集中して招待状制作に取り組み、完成後の達成感を感じることができる。	招待状に必要な内容を3つ以上答えることができる。	計画通り必要なことが書かれ、もらった人が嬉しくなる工夫がある招待状を作ることができる。	招待状に短い文を書いて、来場してほしい気持ちを表現できる。
	支援の手立て	凝りすぎて時間がなくなって意欲をなくさないよう、進み具合を確かめながら声かけを行う。	本人からの要望があればヒントを与える。	計画表をよく見るように指示する。	表現の仕方に迷うときは、教師が例を示す。
3年 女子 E	本単元に関する生徒の実態	上級生として、行事をみんなで成功させようとする気持ちがある。	ヒントがあると、活動に必要な事柄やカードに必要な項目などを挙げることができる。	熱心に制作物に取り組もうとしている。安全や衛生への配慮は、まだ身につけていないが努力している。	相手に自分の気持ちを伝える文を書くことができる。
	本時の概ね満足できる状況	集中して招待状制作に取り組み、完成後の達成感を感じることができる。	招待状に必要な内容を3つ以上答えることができる。	計画通り必要なことが書かれ、もらった人が嬉しくなる工夫がある招待状を作ることができる。	招待状に短い文を書いて、来場してほしい気持ちを表現できる。
	支援の手立て	時間がなくなると仕事が雑になるので、丁寧さを確かめながら声かけを行う。	本人からの要望があればヒントを与える。	計画表をよく見るように指示する。	表現の仕方に迷うときは、教師が例を示す。
2年 女子 F	本単元に関する生徒の実態	自立の気持ちが強く、行事の取り組みも大人の手を借りずにやりたい気持ちを持っている。	起こりうる様々なケースを考えて、活動に必要な事柄などを、自分で考えて挙げることができる。	熱心に制作物に取り組もうとしている。安全に気をつけている。	率直に感謝の気持ちを言葉で伝えることができる。適切な言葉でないときのアドバイスも、素直に聞き入れその後直すことができる。
	本時の概ね満足できる状況	ほぼ自分の力で招待状制作に取り組み、完成後の達成感を感じることができる。	招待状に必要な内容を3つ以上答えることに加え、自分なりにあった方がよいと思う内容を加えることができる。	計画通り必要なことが書かれ、もらった人が嬉しくなる工夫がある招待状を、できるだけ自分の力で作ることができる。	招待状に自分で考えた文章を書いて、来場してほしい気持ちを表現できる。
	支援の手立て	様子を見ながら必要に応じて声かけを行う。	確認の声かけを行う。	手順の確認をするよう声かけを行う。	表現が適切でないときは見直しを促す。